

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①校内授業研や小中一貫ブロック授業研において積極的に授業を公開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。②小中・各学年における分析チャートや生徒・保護者による授業評価を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行う。	①9年間で育てる子ども像を意識した校内研修や小中ブロック研を積極的に行い、「主体的に自分を表現できるようにする授業」に取り組んでいる。②分析チャートや生徒・保護者による授業評価を活用して授業改善を行い、学習指導要領改訂に向けた課題を共有した。	B
豊かな心	①子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」をさらに浸透させるとともに、確かな人権感覚・意識の向上を図るために人権作文・人権標語作りを全校で取り組む。②体験学習や地域行事を通して、思いやり心や公共心を育成し、社会の一員としての自覚を高める。	①子ども会議のテーマを基に生徒会による「あいさつ運動」等が生徒全体に浸透してくるとともに道徳や人権教育を通し、自己を深く見つめ、互いの違いを認め、より良く生きようとする生きる力の向上を図った。②多くの地域行事へ積極的に参加し、交流によって社会の一員としての自覚を高めた。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図る。また、健康や安全、環境について意図的・計画的に理解を深め、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。②学校生活以外でも小中ブロック交流や地域行事等を通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	①新体力テストの結果を基に、生徒一人ひとりが目標を設定し、体力の向上を図った。②健康や安全、環境について、理解を深めるために教科以外に講演会・研修等を行った。③小中ブロック交流や地域での体力向上に関わり、地域全体に寄与した。	A
生徒指導	①YPアセスメント等を活用し、生徒理解を深める研修を行うとともに相談活動を充実させ、生徒に寄り添った信頼関係の構築を図る。②保護者・地域・関係機関と連携するとともに職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題の早期発見・対応に取り組む。	①YPアセスメント研修を行い、相談活動の充実と生徒に寄り添った信頼関係の構築を図った。②生徒指導専任・指導部長を中心に保護者・地域・関係機関との連携を密にし、問題の早期発見・対応に取り組んだ。	B
特別支援教育	①特別支援教育委員会で支援を要する生徒に関する理解を深め、支援・指導計画による適切な支援を行う。また、SCや外部関係機関と連携を図り、より適切な支援方法を探る。②UDやインクルーシブ教育等に関する研修を行い、職員の理解を深める。	①特別支援教育委員会を中心に支援を要する生徒の理解を深め、支援計画・指導計画による適切な支援を行うとともにSCや外部関係機関と連携を密に図り、適切な支援を行った。また、特別支援教室による学習支援を図った。③UDやインクルーシブ教育等に関する校内研修を行い、職員の理解を深めた。	A
地域連携	①学校だよりを毎月(年12回)発行し、積極的に学校の教育活動の様子を発信するとともに学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針等を含め教育活動への理解・協力を仰ぐ。②区や連合町内会等の行事や地域活動、5校種連携事業に積極的に協力し、連携を深める。	①学校だよりの定期発行、学校説明会やまち懇、学校HP等により中期学校経営方針に沿った教育活動への理解・協力を図った。②地域行事等に、生徒の参加を含め積極的に協力し、連携が深まり、本校への協力体制も強化された。③5校種の連携事業(音楽発表会)の開催が定着した。	A
キャリア教育	①実生活や実社会と自分との関わりや人との出会い、人から学ぶことを大切にしながら「自分づくり教育(キャリア教育)」を推進する。②職業講話、職場体験、進路学習を通して自己の生き方を具体的、現実的なものとして考える態度を育てる。	①地域の方々を中心にした関わりを通して、多くを学び「キャリア教育」の推進を図った。②職業講話、職場体験、異校種交流等を通して、自己の生き方を具体的、現実的なものとして考えながら、進路学習につなげることを意識し、寄り添った指導に取り組んだ。	B
いじめへの対応	①月2回のいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に努める。②生徒理解研修を含め、年3回のいじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対する意識を高めるとともに、生徒アンケートや教育相談により些細な変化をも見逃さない指導体制を構築する。	①「いじめ防止基本方針」の十分な確認を行い、いじめ防止対策委員会で、認知された案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に取り組んだ。②生徒理解研修等のいじめ防止研修を実施し、全教職員の意識向上を高め、指導体制の再確認を行い、未然防止、早期発見、早期対応に迅速に取り組んだ。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学年組織と管理職による研修やミドルリーダーによる研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図る。②校内研修や研究授業、小中一貫ブロック授業研等、外部指導者を活用し、意図的、計画的に実施するとともに打合せ等でも適宜情報を提供し、教師力の向上を目指す。③機能的かつ効果的な学校運営を目指し、学校組織及び校務分掌の見直しを行う。	①学年組織と管理職、ミドルリーダーによる研修を実施し、経験の浅い職員の育成を図った。②外部指導者を活用し、教師力・授業力向上を図るとともに新学習指導要領の理解を図り、実施準備を行った。③緑園義務教育学校開校を控えて、機能的・効果的の学校組織及び校務分掌の見直しを働めている。	B
ブロック内評価後の気付き	小中連携事業の一貫として相互の授業研究会(年3回)の実施が定着してきている。学習指導要領改訂に向け、9年間で育てる子ども像を意識した各教科内研修やブロック教務主任会、ブロック専任会により相互理解がより深まり、充実させることができる。今後、緑園義務教育学校開校に向け、岡中ブロックの学校運営協議会の開設、ブロックでの授業研究会を含めた小中一貫教育のあり方を検討・準備を進めて行く必要がある。スムーズ移行に向け、継続する事業と改善する事業の精選も必要である。		
学校関係者評価	・保護者や地域の方から、岡津中のよい評価をいただくことが多くなった。その一方で、友人や大人との関係に悩みを持つ生徒が少しずつ増えている。地域や外部と連携する機会も増えており、地域の方々と連携がさらに重要になってくると思われる。・多くの生徒が気持ちの良い挨拶をしてくれ、明るく落ち着いて学校生活を過ごしている。また、生徒はよくがんばっているのでもっと誇りをもって良いと思う。令和4年の緑園義務教育学校開校に向けて、課題も出てくるが、地域で考えていく部分もあり、支援していきたい。		
中期取組目標振り返り	○学校経営中期目標をPDCAを活かし、十分な検証をもとにボトムアップでの改訂を進め、教職員や保護者、地域にも周知・徹底を図った。また、いじめ防止や虐待防止に向けて、研修を積み、『チーム岡中』としての組織で取り組むとともに不登校対策にも特別支援教育コーディネーターを中心に重点的を置いている。○2020年度緑園義務教育学校開校に向け、わかりやすく明確な学校教育目標の見直しや学校運営協議会の設置、小中一貫教育事業の見直し等、様々な課題を整理し、今後の岡津中学校のあり方を検討していかなければならない。		